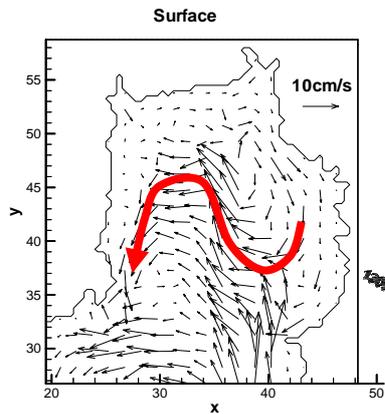
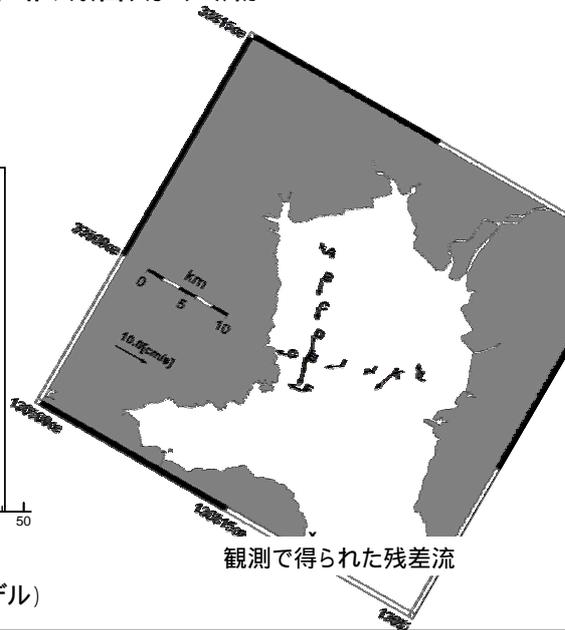


モデルと観測の比較
11/1, 非成層期・大潮



数値モデル
(診断モデル+潮汐・潮流モデル)



実測された残差流分布と数値シミュレーションの結果は比較的よく一致



現在, 流動モデルを発展させ, 懸濁物輸送モデルを開発中

その他

佐賀県沖有明海の覆砂による底質の経時変化について

加藤治(干潟底質環境研究部門)ほか

農業排水の負荷削減に関する研究

原田浩幸(環境物質動態研究部門)ほか

など

今後の研究計画

| | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 |
|------------|--|--|---|
| 環境物質動態研究部門 | 河川を含めた陸域流入負荷量の算定と負荷削減技術を提案する。現地調査・実験により、栄養塩、酸素等の海底フラックスを算定できるようにする。 | 有明海に対する底質・大気・河川・沿岸クレークからの物質負荷の推定手法を確立する。さらに対象領域を有明海南部に拡張して底質調査を行う。 | 有明海に対する海底、陸域、大気からの物質フラックスについて過去20年程度の変化を推定し、有明海生態系モデルに対する境界条件として供するようにする。 |
| 干潟底質環境研究部門 | 底泥中の金属濃縮と生物への影響の解明、貧酸素水塊の発生機構と防止策の検討、地域資源を利用した負荷削減技術の開発、底泥中の窒素循環モデルの検討 | 底泥中の金属濃縮と生物への影響の解明、貧酸素水塊の発生防止策の検討と水質環境への影響調査、地域資源を利用した負荷削減技術の開発、底泥中の窒素循環モデルの検討 | 底泥中の金属濃縮と生物への影響の解明、貧酸素水塊の底生生物への影響調査と総括、地域資源を利用した負荷削減技術の開発、底泥中の窒素循環モデルの検証と総括 |
| 環境モデル研究部門 | 生態系モデルを構築するとともに、モデル構築のために必要な低次生態系のモニタリング調査・パラメータ推定のための実験をおこなう。 | 有明海の基本的な低次生態系変動が再現できるように生態系モデルを確立する。現地調査・実験は、未知の部分が多い泥干潟の生態系を中心に継続する。 | 生態系モデルによって、諫早湾干拓工事等有明海生態系に与えた影響を評価する(気象条件など、自然条件の変化の影響も加味して評価する)。 |